

環境報告

企業ステートメント

クラレグループ行動規範

コンプライアンス・ハンドブック

トップステートメント

クラレグループのCSRマネジメント

安全報告

環境報告

環境マネジメント

地球温暖化防止

環境リスクの低減

環境会計

環境データ

社会性報告

コーポレート・ガバナンス

GRIスタンダード対照表
(内容索引)

CSRレポート
バックナンバー

ランドセルは海を越えて

環境マネジメント

地球温暖化防止

環境リスクの低減

環境会計

環境データ

地球温暖化防止

国内グループではCO₂排出削減努力（バイオマス燃料の使用量拡大、廃プラスチックの燃料化、運転効率化、省エネ機器への更新、地道な省エネ活動（ムダ取り活動）等）により、2017年度は9.6千トン-CO₂の排出削減対策（2011年度からの累計で160千トン-CO₂削減）を行い、総排出量は1,330千トン-CO₂となりました。その結果、国内グループの環境効率は2010年度対比で8.7%向上していますが、中期計画の2017年度目標値（2010年度対比28%向上）には届いていません。

一方、海外関係会社においては、新設した製造拠点の稼働率上昇、および、既存設備の生産能力増強等により、エネルギー消費量は500千kL（原油換算）となりました。環境効率は2014年度以降低下し、2017年度は基準年の2010年度を下回る結果（2010年度対比9.1%減少）となりました。これはポリマー樹脂原料のビニルアセテート事業を買収し、自製化したことで、エネルギー使用量が増大したにもかかわらず、売上高への影響は軽微であったことが大きく影響しています。

国内グループ	1,330千トン-CO ₂ (2016年度 1,303千トン-CO ₂)
海外関係会社	500千kL-原油換算 (2016年 437千kL-原油換算)

海外関係会社エネルギー使用量推移



クラレグループ GHG 排出量総合計推移



バイオマス燃料発電

クラレでは倉敷事業所で石炭の代替燃料としてバイオマス燃料※（建築廃材等の木材チップ）を導入し、逐次投入量を拡大してきました。2017年は、約43千トンのバイオマス燃料を投入したことに

より、およそ65千トン-CO₂の排出削減に貢献しました。今後も引き続きバイオマス燃料の投入量を増やす取り組みを進めていきます。

※自らが成長する過程で大気中のCO₂を吸収しているため、燃焼させた際に発生するCO₂は差し引きゼロと考えることができます。

製品輸送時の環境負荷低減

クラレでは事業所等での製品製造時に自らが排出する温室効果ガス（GHG）のほかに、製品をユーザーへ輸送する際の物流段階での環境負荷の低減にも取り組んでいます。トラック輸送から貨物列車、船などへ輸送手段を転換する“モーダルシフト”的取り組みを継続して進めた結果、2017年度の排出量は、12千トン-CO₂となりました。

Scope3における GHG排出量

GHGプロトコル※ではGHG排出量をScope1、2、3の3つに区分しています。

・ Scope 1（直接排出量）：

自社の事業所等で燃料などを燃焼させることで発生するGHG排出量

・ Scope 2（間接排出量）：

他社から供給された電気、熱、蒸気など購入エネルギーに伴うGHG排出量

・ Scope 3（その他の間接排出量）：

Scope 1、2以外のサプライチェーン全体（原材料から製品の廃棄まで）におけるGHG排出量

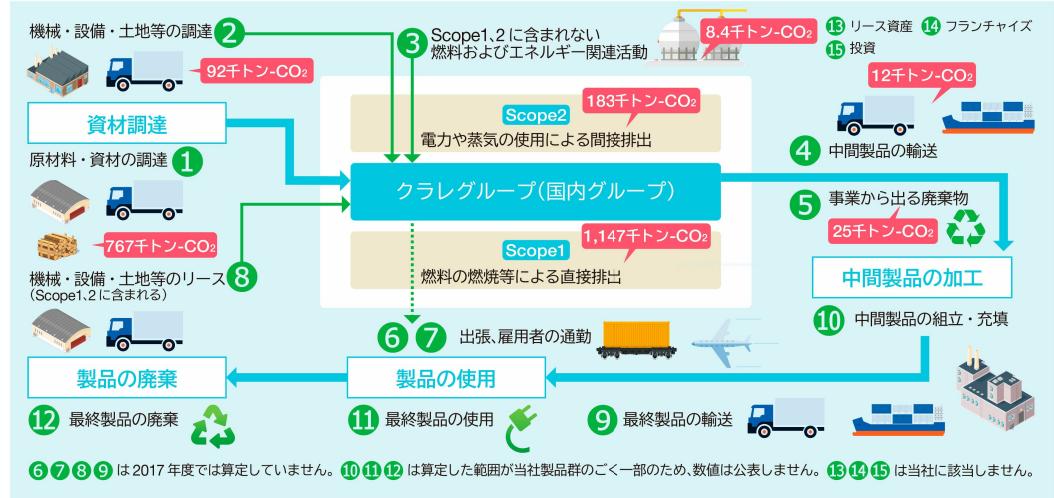
このうちScope1、2は事業者が自主的に算定し国に報告することが法で義務付けられており、クラレでも国に報告するとともにCSRレポート等で公表してきました。

一方、サプライチェーン全体を考慮したGHG排出量であるScope3の算定は、クラレの直接的な事業活動による排出量だけではなく、原材料の調達から製品の流通、使用、廃棄に至るライフサイクル全体の視点から排出量を把握するもので、2013年度から算定を継続しています。

Scope3の全15カテゴリのうち、当社非該当、あるいは、算定範囲が当社製品群のごく一部のため公表対象外としたカテゴリを除き、排出量が比較的大きい5カテゴリ（下図の①～⑤）について2017年度実績を算定しました。また、クラレグループ製品のカーボンライフサイクル評価によるCO₂削減効果の定量化も継続して進めています。

※GHGプロトコル（The Greenhouse Gas Protocol）：世界資源研究所（World Resource Institute；WRI）と世界環境人協議会（World Business Council for Sustainable Development；WBCSD）が中心になり、世界中の企業、NGO、政府機関等が参加して温室効果ガス／気候変動に関する国際スタンダードや関連ツールを開発するニアシティップです。

[Scope3] サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量管理イメージ
(図中の①から⑯はScope3のカテゴリを示す)



企業情報

- 会社概要
- ごあいさつ
- 企業ステートメント
- 役員
- 組織図
- 沿革
- 主な受賞歴
- 主要グループ拠点
- 会社案内動画
- テレビ番組動画
- 広告ギャラリー

製品情報

- 事業から探す
- 製品名から探す
- キーワードから探す
- 製品のはてな
- トピックス
- 基本方針
- 技術と製品
- 組織・体制
- 歴史
- Planet
- Product
- People
- ガバナンス
- GRIスタンダード対照表（内容索引）
- クラレレポート（統合報告書）/ サステナビリティウェブサイト
- ランドセルは海を越えて
イニシアティブ

研究開発

- クラレグループ行動規範
- クラレグループ人権方針
- トップステートメント
- サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画
- クラレグループのマテリアリティ
- Planet
- Product
- People
- ガバナンス
- GRIスタンダード対照表（内容索引）
- クラレレポート（統合報告書）/ サステナビリティウェブサイト
- ランドセルは海を越えて
イニシアティブ

サステナビリティ

- 企業ステートメント
- クラレって？
- 業績・財務情報
- IRライブラリー
- 株式情報
- IRカレンダー
- よくあるご質問
- Planet
- Product
- People
- ガバナンス
- GRIスタンダード対照表（内容索引）
- クラレレポート（統合報告書）/ サステナビリティウェブサイト
- ランドセルは海を越えて
イニシアティブ

投資家情報

- 経営方針
- IRニュース
- クラレって？
- 業績・財務情報
- IRライブラリー
- 株式情報
- IRカレンダー
- よくあるご質問
- Planet
- Product
- People
- ガバナンス
- GRIスタンダード対照表（内容索引）
- クラレレポート（統合報告書）/ サステナビリティウェブサイト
- ランドセルは海を越えて
イニシアティブ